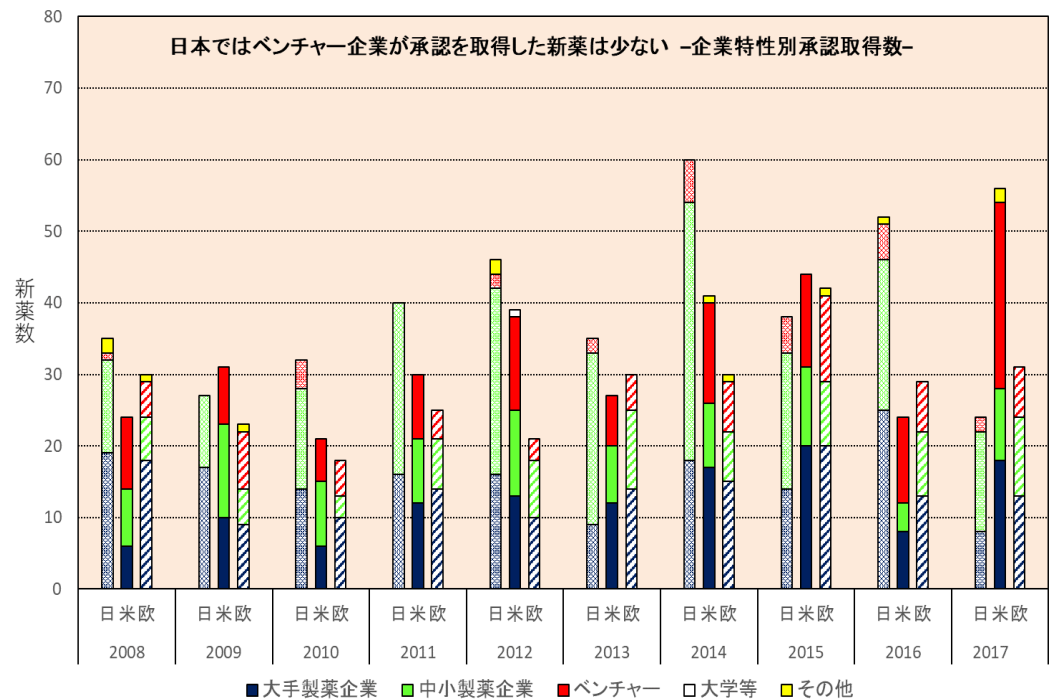


新薬はベンチャー企業から、は本当か？ (1)

新薬の研究開発でベンチャー企業やアカデミアの果たす役割は大きい。そう言われている業界動向を日米欧の横断比較で見ると、日本の特徴が浮び上る。創薬の各段階（薬の新規標的分子の発見、研究開発、承認）でのベンチャー企業・大学の特徴と役割を見ることで、課題も見えてくるのではないかと。以下では、直近の10年間、ベンチャー企業が日米欧で承認を取得した新薬の数を従来型の製薬企業と比較する中でヒントを探る。

2008～2017年に日米欧で承認された新有効成分を含有する新薬を解析の対象にした。承認を取得した企業は以下のとおり分類した。

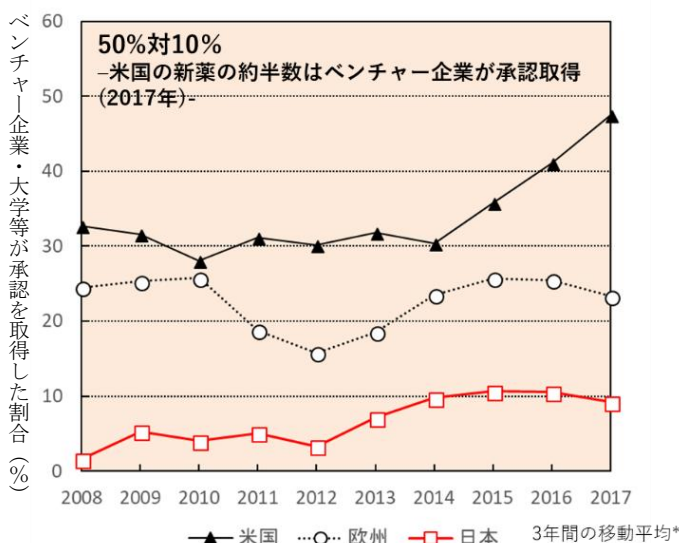
- ① 大手製薬企業（1974年以前に設立。2017年売上上位13社）
- ② 中小製薬企業（1974年以前に設立）
- ③ ベンチャー企業（1975年以降に設立）
- ④ 大学等
- ⑤ その他（ジェネリック企業等）



出典：新薬の承認情報は独立行政法人 医薬品医療機器総合機構、アメリカ食品医薬品局および欧州医薬品庁のデータベースを、設立年は各社のHP、Bloombergを参照し、OUVCで作図した。

各グループが承認を取得し

た新薬の数を上の図に示す。日本ではグローバル企業と従来型の中小製薬企業が多く承認を取得している。一方、米国と欧州では2008年の時点で、承認を取得したベンチャー企業が既に存在している。



出典：上図と同じ
*2008年と2017年の値は2年間の平均値

ベンチャー企業・大学等が承認を取得した新薬の全新薬に占める割合推移を見たのが左のグラフ。米国では2015年から急伸して2017年には47.5%に達している。欧州は2011～13年に20%以下となったが、おおむね20%台。日本は米、欧よりも低く、2014年以降は約10%で推移している。

ベンチャー企業が承認を取得する新薬の割合は米国で特に高く、研究開発だけではなく、販売機能も持ち始めている。これらのベンチャー企業の多くが拠点を米国に置き、設立からの年数も比較的長いことが米の高割合の要因の一つと考えられる。

知財の源泉を遡れば別の景色も見えてくる。次回の報告では、これら新薬のオリジンとベンチャー企業の間を検討する。[OUVC 投資部第3グループ調査役 西角文夫(Ph, D.)]